

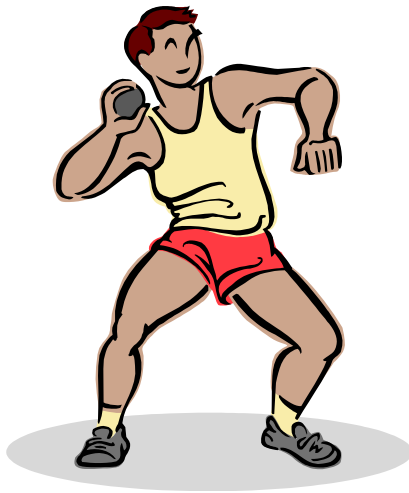
日本、五輪3大会連続「金・銀・銅」制覇

～ 従業員6人の会社で世界を制覇する(1)～

1996年のアトランタ大会、2000年のシドニー大会、2004年のアテネ大会と、オリンピック（五輪）で3大会連続して、日本が「金・銀・銅メダル独占」という快挙をなしとげました。

「そんな種目や日本人選手はいなかった」と思う人がほとんどかと思いますが、実はこれは砲丸競技の「砲丸」の話で、埼玉県富士見市にある辻谷工業でつくられた砲丸を使った選手たちがメダルを独占したのです。

辻谷工業の砲丸は、世界の他のメーカーに比べてよく飛ぶのです。ですから、世界中の競技選手が辻谷工業の砲丸を使いたがるのです。



これほどの技術を持つ企業なので、どれだけ大きなメーカーかと思われそうですが、実は従業員6人という典型的な家内工業です。製造に携わるのは79歳の辻谷社長で、自宅兼工場にある、コンピュータ制御のNC旋盤といわれる機械ではなく、昔からある汎用旋盤を駆使して、「光と音と手の感触」だけを頼りにして、世界で誰もマネのできない「世界一の魔法の砲丸」を作り続けています。

この技術は世界のトヨタ自動車が認めるほどで、トヨタのラーニングセンターの玄関には、汎用旋盤の技術見本として、辻谷社長の砲丸が完成するまでの全

14工程を展示しています。

辻谷社長は、尋常小学校卒業しましたが、戦争の影響で、中学進学をあきらめて、父親の経営する工場で働きながら、技術を身に付けました。その間に、苦勞をして定時制高校にも通いました。

しかし、26歳のときに、「毎年毎年、コストダウンを迫られる。いくらいい機械をつくっても、技術を開発しても追いつかない。自動車会社の下請けをやっているも将来性がない」と思い、独立をしました。

独立後、アウトドアのテント、ゴルフのアイアンと新しい物を作りましたが、そのたびに大手企業がその分野に進出し、撤退せざるを得ませんでした。〔(2)に続く〕